



今回の薬剤散布は主力品種（南水・ラフランス等）の最終防除です。成熟前の病害虫総合防除のため、園の隅々までかかるようにしてください。

◆ 和梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。）

【有袋・無袋】9月上中旬の薬剤散布（前回より15日後）

散布時期	9月5日～10日	◆ 散布日：9月 日
散布薬剤	水 100ℓ 展着剤 20ml キノンドーフロアブル 100ml（3日前、9回） *注意事項③ ダントツ水溶剤 25g（前日、3回） *注意事項④	◆ 散布量： ℓ
対象病害虫	黒斑病、輪紋病、シンクイムシ類、カメムシ類、コナカイガラムシ類	
散布量	10アール当り：450ℓ以上散布	
注意事項	① 南水・あきづきの最終防除。 ② 有袋栽培の場合は、果実袋の破袋後に散布する。よって、今回の薬剤散布前に破袋作業を実施する。 ③ 無袋栽培等で果面汚れが心配される場合は、キノンドーフロアブルに代えてストロビーDF2,000倍（前日、3回）を使用してもよい。 ④ ダントツ水溶剤に代えて、アルバリン顆粒水溶剤2,000倍（前日、3回）でもよい。 ⑤ 薬液が樹の隅々まで到達するように、散布量は多めに設定する。また、過繁茂状態の場合は、薬剤散布前に徒長枝処理を行う。	

～ 和梨重点栽培管・南水の収穫について ～

◆ 無袋栽培の防鳥・防蛾対策

- ① 鳥害が発生しています。芳香の強い南水は鳥害を受けやすいので注意してください。
- ② 防鳥ネットの点検。（破損箇所がないようにしましょう。）

◆ 日焼け果（石梨）の除去は収穫前に！

無袋の上向き果を中心に日焼け果が多発しています。この日焼け果を放置しておくと、収穫時には果面が浅黒く、果肉が硬い果実（石梨）になります。この石梨は食味が悪いため、正品及び袋詰め規格にも入りません。収穫前に除去してください。

◆ 南水の適期収穫について

- ① 満開後145日前後、南水用カラーチャート値2.3の果実を中心に収穫できるようにする。
果皮色は、ていあ部（尻）からこうあ部（軸）に向かって進む。よって、カラーチャートの比色部位は果実の赤道面のやや下側の陰光面とする
【カラーチャート指数2.3】・・・緑色が抜け始め、ていあ部から赤道部にかけて褐色部が30%位
- ② 収穫開始予想：南部地区9月7日頃～、北部地区9月10日頃～
あくまで健全樹の予想になります。樹勢や土質によっても前後しますので注意してください。
- ③ 収穫直前の高温により果肉成熟が早まる傾向にあります。外観や食味等総合的に判断して収穫作業に入りましょう。
- ④ **中長期的な販売が可能な果実品質の収穫を徹底する。** 果面が赤茶色状まで進んだ果実は、即売向きと判断し、別コンテナでの集荷を予定しています。

◆ 西洋梨の薬剤散布（9月上中旬）は裏面をご覧ください。

◆ 西洋梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。）

9月上中旬の薬剤散布（前回より20日後）

◆ 散布日：9月 日

◆ 散布量： リットル

散布時期	9月1日～10日
散布薬剤	水 1000 当り 展着剤 10ml キノンドーフロアブル 100ml（3日前、9回） ダントツ水溶剤 25g（前日、3回）
対象病害虫	輪紋病、シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、コナカイガラムシ類
散布量	10アール当り：600リットル以上
注意事項	① ラ・フランス等の最終防除。 ② キノンドーフロアブルに代えてオキシラン水和剤500倍（3日前、9回）でも良い。有機銅成分を含む薬剤（オキシラン水和剤やキノンドーフロアブル等）の使用回数は合計で9回以内であるので注意する。 ③ キノンドーフロアブルを使用する際は、容器の口を下に向けて横に回しながら上下に振り、容器内でよく溶かしてからSS等のタンクへ投入すること。 ④ 葉やけ防止のため、高温時の散布はしない。また降雨が心配される場合は散布を見合わせる。 葉やけの起きやすい条件：①薬剤散布直後の降雨、②急激な高温、乾燥とその後の多雨等。 ⑤ 薬液が樹の隅々まで到達するように、散布量は多めに設定する。また、過繁茂状態の場合は、薬剤散布前に徒長枝処理を適宜行う。

～ 西洋梨の収穫について ～

早生品種のオーロラの収穫期間は昨年より3日程度早い状況です。生育の進みと高温により果肉硬度低下が早く、核果類同様に成熟が前進化しています。

主力のラ・フランスの玉肥大は前年を上回っています。（下表参照）定点成熟調査を経て収穫日を設定しますが、他品目や早生種の成熟度を考慮すると昨年よりやや早まると見込んでいます。詳細は後日特報を配布します。今しばらくお待ちください。（収穫期間予想：9/20～25頃）

◆ ラ・フランス肥大調査（8月15日現在）

縦径：65mm（前年比103%）

横径：64mm（前年比104%）

◆ 腐らん病対策

本年は全域で多発傾向です。気温が低下する9月下旬以降再び感染が活発になります。病斑部を見つけ次第、削り取り処理や切除し、傷口にトップジンMペーストを塗布してください。

◆ 側枝候補の誘引

主枝候補を誘引する場合は、オーロラ等は45度、ラ・フランスは30度を目安に誘引する。また、繁茂状態の園では、徒長枝を適度にせん除し、次年度使用する花芽に良く光を当てるようにする。